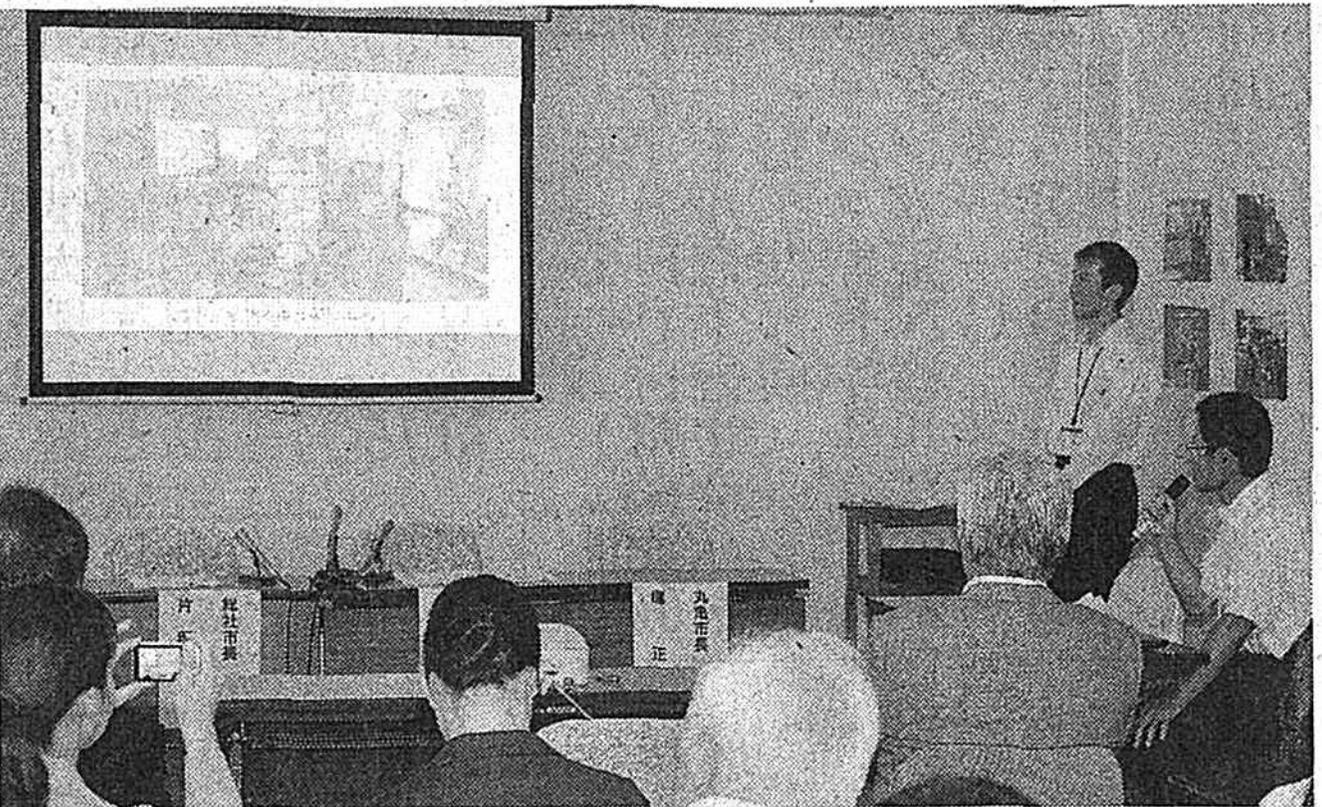


熊本支援の活動報告

合同チームテント村設置など

熊本地震で被災地支援にあたった国際医療NGO「AMDA(アムダ)」(本部・岡山市)と総社市などで現地での活動内容を報告した。

チームには、備前市や香川県丸亀市、高知、徳島両県内の自治体職員やボランティアからも参加。延べ18



被災地での支援活動を報告する合同チームのメンバー(総社市役所で)

2人が4月20日～6月1日に熊本県益城町で、支援物資の運搬や避難者らの健康管理などに携わった。

さらに、総社市環境観光大使の登山家・野口健さん(42)らが屋外避難用のテントを提供し、同町に設置した「テント村」でも設営や運営を手伝った。

総社市の片岡聡一市長は「大規模災害被災地支援に関する条例があったことで、瞬時に対応できた。テント村の設置・維持には、備前市や丸亀市の協力が必要だった」と自治体の連携の重要性を強調した。

テントでの避難生活について、AMDAグループの菅波茂代表は「エコノミークラス症候群やインフルエenzaなど、集団生活に起因する病気の予防、プライバシーの確保ができた」とメリットを述べた。